

九手連広報誌

はっけん

2013年7月号

【掲載内容】

- ◎ 第39回九州手話サークル連絡協議会評議員会
- ◎ 幹部会議
- ◎ 通信員会議
- ◎ 第21回九州手話サークル連絡協議会研修会

★第 39 回（平成 25 年度）九州手話サークル連絡協議会 評議員会

熊本県 松下さえ子

☆平成 25 年 6 月 22 日 18:00～

☆春日市 クローバープラザ

福岡の祐下さんによる開会宣言、そして、中元会長より開会に関してのお礼等の挨拶があり、来賓に（社）福岡県聴覚障害者協会理事長 大澤五恵様より「障害者総合支援法」や「差別解消法」に関しての活動をしてきたが、国に意見要望等届かないという事を実感している等の挨拶がありました。

	評議員数	出席数	委任数	合計
福岡	7	6	0	6
佐賀	2	2	0	2
長崎	4	4	0	4
大分	5	4	1	5
熊本	4	4	0	4
宮崎	4	3	1	4
鹿児島	3	3	0	3
	29	26	2	28

資格審査として右記の表を参照ください。

議長に大分の入江さんが推薦され議事が始まりました。

「平成 24 年度事業報告」を鹿児島理事出森副会長より報告、「平成 24 年度決算報告」は熊本の森事務局長より、監査報告を福岡の野田さんから報告があり、承認されました。

また、「平成 25 年度事業計画（案）」を佐賀理事辻田副会長より、「平成 25 年度予算（案）」は森事務局長より提案があり承認され、議事が終了し、その他として各県からの報告が下記の通りありました。

★出森さん（鹿児島）；9 月 7・8 日の全九手連研修会の案内と資金調達の為、クリアファイルを¥300 で販売していますので協力お願いします！

★内堀さん（福岡）；全国で 3 番目の運転免許取得者『田籠勝三・結核条項と苦闘したろう者の物語』の記録誌（一部¥1,000）の販売と HP の紹介。

★小浜さん（長崎）；8 月 17・18 日「ろう教育を考える全国討論集会 in 長崎」参加お待ちしております。

★中元会長（大分）；沖縄県手連立ち上げ支援について補足されました。

沖ろう協も立ち上げを待っている状態ですが、地域性で 2 つの窓口があるのでなかなか立ち上げが難しいことや、20 年くらい前から活動している。

沖縄九手連が立ち上がって、九州 8 県になるので広報誌「はっけん」とネーミングされた事など話されました。

※「はっけん」の名前の由来初めて知りました。本当にはっけんになる事を待ち望んでいます。

★役員について

会 長 中元 教博（大分）

副 会 長 出森 俊郎（鹿児島） 辻田 亜紀（佐賀）

理 事 吉満 寛（福岡） 辻田 亜紀（佐賀） 草野 徳（長崎）

青山 寛六（熊本） 神田 みどり（大分） 甲斐 弘美（宮崎）

出森 俊郎（鹿児島）

監 査 長崎 佐賀

事務局長 森 保夫（熊本） ※事務局員 田中 みさ代（熊本）

顧 問 村本 宗和（熊本）

相 談 役 前渕 洋一（熊本）

理事役割分担 研修（鹿児島・佐賀） 組織（宮崎・福岡） 広報（長崎・大分・熊本）

今回退任されました福岡の祐下さん（6 年間）、大分の川浪さん（2 年間）、宮崎の平野さん（2 年間）本当にお疲れ様でした。

幹部会議で熱く討議！

長崎県 小濱 規男

平成25年6月22日（土）、福岡県春日市のクローバープラザで、評議員総会に先立って、幹部会議が開かれ、九州各県から手話サークルの幹部24名、九手連理事6名、合計30名の出席でした。私たち長崎県からも2名が出席しました。

会議のテーマは、「地域におけるろう者との関わり（＝手話サークルの役割）」として、4つのグループに分かれて討議しました。討議は、

- 1) 手話サークル活動での関わり、
- 2) 地域生活での関わり、
- 3) 災害時における、ろう者への支援、
- 4) 行事、スポーツを通しての関わり、

を軸としながら、各グループで自由な形で進めました。

14時10分から、制限時間の16時まで、4グループともに休むことなく討議を続け、どのグループも積極的な発言が飛び交い、熱気に満ちた時間を過ごしました。

16時からの発表では、それぞれのグループで語り合った熱い思いが述べられました。

その思いの一端を紹介します。「手話サークルは、当然のことながら地域に住むろう者に寄り添い、地域に根ざした活動が必要だ。近年、ろう者若年層の活動離れ、高齢ろう者の増加、手話サークルの活動へのろう者の参加が減少していること、など、手話サークルを取り巻く環境は、必ずしも良いものとは言えない。災害等緊急時のろう者への支援は、その時だけの関わりではうまく回らない、普段からもう一歩突っ込んだ活動が必要だ。例えば、消防署と連携する緊急ファックスにしても、ある地域では年1回必ずろう者宅から消防署への試験送信に取り組むことで、様々な点を改善している。また、ろう者が地域生活で周りの人たちと交流がうまくいってない、それを何とかしたい。手話サークルは、もっと地域でアピールしよう。」

時まさに、障害者差別解消推進法が国会で可決されたばかり。法が実効を伴うのは、国民のすべてが障害者を真に理解したときでしょう。そこには、手話サークルの活動が果たすべき役割も大きくクローズアップされてくるでしょう。

このような時期に手話サークルの役割を再確認でき、実り多き会議になりました。ありがとうございました。

通信員会議

長崎県 草野 徳

各県の通信員と出席出来ない県は代理の方が集まり、通信員会議を開催しました。

昨年「はっけん」の作成にあたり、不手際から依頼の記事が重複してしまう事が起こり、その解決策としては、以前使用していた研修講座の一覧表を作り、事前に各県の希望・可能な講座を確認し、発行者が調整依頼する方法を取ることになりました。

25年度「はっけん」作成担当は、7月：長崎県、11月：熊本県、4月：大分県です。

昨年度の九手連HPのアクセス数**8713件**でした。本年度も九手連HP「掲示板」「足あと」へ、『月1回は、通信員若しくは理事が書き込みを行う』。各県の情報を積極的に書き込み・情報発信すること。また、各県・各サークルにも広くアクセスを呼び掛けて行く事を話し合いました。

第 21 回九州手話サークル連絡協議会研修会

メインテーマ：「地域における支援のあり方」

午前の部

講演「地域におけるろう高齢者支援について」

講師：特別養護老人ホームふくろうの郷 施設長 大矢 暹氏

『淡路ふくろうの郷』の施設長として有名な大矢氏のお話は、高齢ろう者のお話を中心に進みました。書籍などで触れたことのあるお話もあったと思いますが、画像も多数あり、お一人ずつ丁寧に紹介されました。

施設に入る前の高齢ろう者の半生を知ると、当時の社会的な考えが、いかに高齢ろう者を傷つけてしまったのかが浮き彫りになり、胸がしめつけられそうでした。大矢氏はそれらを「負」の思い出、「負」の遺産と表されました。そして、大矢氏の施設長としての仕事は、高齢ろう者に寄り添い、お話をしたり、絵を描いたりすることで、「負」の思い出を解きほぐすこととのことでした。

高齢ろう者の中には、今でも過去のお話を出来ない方がいらっしゃると思います。しかし、大矢氏のように、高齢ろう者に敬意を表し、寄り添って来た方たちがいらっしゃるからこそ、私たちは知ることができたんだと、実感しました。

(佐賀県 唐津手話サークル 吉田 智穂)



午後の部

講演「高等教育における聴覚がい支援について」

サブテーマ：大学（高等教育機関）における情報保障

講師：福岡教育大学附属特別支援教育センター 教授 太田富雄氏

平成 25 年 6 月 23 日に福岡県春日市にある総合福祉センター・クローバープラザのクローバーホールで行われた第 21 回九州手話サークル連絡協議会研修会に参加しました。大学で学ぶ聴覚障害者に対して、どのように情報保障が行われているのかを知ることができました。

流暢な手話と映像を交えた太田教授の講演は、とてもわかりやすかったです。

初めに自己紹介があり、子供の頃家庭の中で交わされる祖父母の手話を見て育ち、祖母の神の手のような華麗な手話に魅了され、祖母への恩返しの意味を込めて手話通訳士試験に臨み、合格をしたと和やかにお話しは始まりました。

大学などで高等教育を受けている障がい者は、11,768 人で在籍率は平均 0.37%。聴覚障がい者数は 1,488 人、うち 1,005 人 67.5%が何らかの支援を受けている（2011 年）。聴覚障がい者には、日本聴覚障害者高等教育支援ネットワーク（PEPnet-Japan）があり、全国 21 の教育機関が加入連携しているが、九州では残念ながら、福岡教育大学のみ。

情報保障の主な手段としてはノートテイク、PCテイク、手話通訳があげられ特徴の比較がしてあった。手話は情報量が多くタイムラグが少ない。ゼミやディスカッションに向く。情報を伝えるだけならば、PCテイクで十分。資料に書き込み、図や数式にはノートテイクが良い。

PCを使えば、テイカーは遠隔地にいても講義の内容を打ち込めるし、誰もがどこにいてもそれを見ることができるという。実際に福岡教育大で行われている授業の様子が映し出され、すごい時代になったと思いました。

手話通訳の素晴らしさもわかりました。上手な手話通訳者はライブ感のある通訳で講義の内容を的確につかみ、その場の空気まで伝えて受講生に一層深く理解してもらおうことができるということでした。

しかし、問題点も多く、専門用語の手話への翻訳をどうするか？高等教育の高度な論理的思考への理解などなど。手話通訳の難しさ奥深さも感じました。

一方、自分だけが特別に扱われているという思いから、周囲への遠慮などもあって、個別支援を断る学生もいるとのことでした。社会の手話への理解がもっと必要であり、教育の現場でこれが当たり前のことになる社会になって欲しいと願いました。

(福岡県 直方手話の会 榎 京子)



編集後記

この度も発行が遅くなってしまい、心よりお詫び申し上げます。

梅雨が明け、暑い夏が続くと思いましたが、各地で集中豪雨が起こり

昨年の九州での被害が思い起こされ、心配になってしまいます。

今年も異常気象と認識して、健康に注意され、災害に注意され、

ストレスをできるだけ溜めないようにして、この夏を乗り切り

サークル活動に頑張ってください。

九州手話サークル連絡協議会（事務局）

〒861-0143

熊本県熊本市北区植木町大和 34-2

森 保夫

発行責任者：中元 教博

広報担当者：草野 徳（長崎）

発行年月日：平成25年7月30日